



最適化 Neutron サービスの有効化

この章の内容は、次のとおりです。

- [最適化 Neutron サービスの有効化, 1 ページ](#)

最適化 Neutron サービスの有効化

ここでは、分散 DHCP 機能およびメタデータ プロキシ機能の設定について説明します。

ACI OpenStack プラグイン ソフトウェア スタックでは、ローカル レイヤ 3、NAT、DHCP、メタデータ プロキシに対して最適化された機能を有効化できます。ローカル レイヤ 3 転送は、システムに組み込まれています。そのため、設定は不要です。

コンピューティング ノード上の分散 NAT サービスは、Neutron 内の外部ネットワークの有効化と連動しています（「[OpenStack 外部ネットワークの追加](#)」を参照）。

最適化 DHCP サービス

ファイル `/etc/neutron/plugins/ml2/ml2_conf_cisco_apic.ini` に `enable_optimized_dhcp` という設定行があり、ファイルに明記されていない場合のデフォルト設定は「True」になります。デフォルトを使用する場合または「True」に設定する場合、VM インスタンスと対話する Discovery、Offer、Response、Acknowledgement (DORA) の機能は、各コンピューティング ノードにローカルに保持されます。

ローカルの agent-ovs サービスは、コンピューティング ノードごとにこの対話を処理します。アドレス割り当ては、neutron-dhcp エージェントによって引き続き Neutron サーバで処理され、管理ネットワーク上で agent-ovs インスタンスに伝達されます。「False」に設定すると、システムは Neutron サーバ上でのすべてのアドレス割り当て機能および DORA 機能に関して集中型の DHCP 機能に戻ります。

最適化メタデータ プロキシ

ここでは、最適化メタデータ プロキシを有効化する方法について説明します。

最適化されたメタデータ プロキシを有効にするには、`/etc/neutron/plugins/ml2/ml2_conf_cisco_apic.ini` ファイル内の `enable_optimized_metadata` と呼ばれる設定が必要です。デフォルト設定は「False」です。したがって、ファイル内で参照されない場合は、テナントネットワーク上で一元化された従来のメタデータ プロキシが使用されます。

手順

- ステップ 1 `/etc/neutron/plugins/ml2/ml2_conf_cisco_apic.ini` ファイルを編集し、`enable_optimized_metadata=True` を設定します。
- ステップ 2 `/etc/neutron/metadata-agent.ini` ファイルが存在し、正しいことを確認します。ファイルが存在しない場合は、コントローラからこのファイルをコピーする必要があります。
- ステップ 3 `neutron-ml2-driver-apic` パッケージもコンピューティング ノードにインストールされていることを確認します。
- ステップ 4 Neutron サーバ上のメタデータ エージェントを無効化し、`neutron-server` を再起動して、次のコマンドを入力します。

例：

```
systemctl stop neutron-metadata-agent
systemctl disable neutron-metadata-agent
systemctl restart neutron-server
```

- ステップ 5 コンピューティング ノードで、`neutron-ml2-driver-apic` パッケージをインストールする必要があります。このパッケージが利用可能になり、`opflex` エージェント サービスが再起動されると、システムはメタデータ プロキシの分散モードで機能を開始します。次のコマンドを入力してください。

例：

```
yum install neutron-ml2-driver-apic
systemctl restart neutron-opflex-agent
systemctl restart agent-ovs
```
